

TAXUS（パクリタキセル溶出ステント）は Cypher の次に日本でも認可されると考えられるステントである。

パクリタキセルはタキサン誘導体であり、微小管の機能を妨害することにより核分裂を阻害し、抗腫瘍効果・抗炎症効果を発揮する。

Low dose では、平滑筋細胞増殖を抑えたり内皮細胞にある接着因子が増えたりするのを抑える。 high dose ではアポトーシスを促し細胞毒性があるとされる。

ポリマー内にパクリタキセルが入っており、ポリマーは 3 層構造をしている。緩徐放出型（SR）・中等度放出型（MR）とも、留置後パクリタキセルの大半はポリマー内に残る。

プラットフォームとしては、TAXUS - では、Nir ステントを使用し、TAXUS - では Express2 ステントを使用している。

パイロットスタディである TAXUS では、症例数 60 例と少ないが、TAXUS 群に再狭窄を認めなかった。

TAXUS 試験（規模が大きい）では緩徐放出型（SR）と中等度放出型（MR）とも優れた再狭窄抑制効果を示した。

TAXUS 試験（ステント内再狭窄 30 例）では、病変の再血行再建率を低く抑えた。

TAXUS では SR の評価がなされた。再血行再建、心筋梗塞などのイベントを低下させ再狭窄も減らした。

TAXUS - では、real world により近い type C lesion を対象としている。

TAXUS についても 3 年間までのデータが出ており、Stent thrombosis の頻度は、TAXUS,Cypher とも変わらない。

特に、Late stent thrombosis の頻度も TAXUS,Cypher とも変わらないと考えられる。